

山村振興計画書

都 道 府 県 名	市 町 村 名	作 成 年 度
愛 知 県	岡 崎 市	平 成 2 8 年 度
振 興 山 村 名	旧額田町：旧豊富村、旧宮崎村、旧形埜村、旧下山村	
指 定 番 号	昭和 44 年（第 586 号）	

．地域の概況

１．自然的条件

（１）地理、地勢

本市は、愛知県の中央部、三河山地と岡崎平野の接点にあり、三河高原の西端に位置しており、総面積は387.20km²で県内３番目の規模となっている。

本市の振興山村地域（以下、「本地域」という。）は平成18年１月１日に合併した旧額田町全域で、本市の東端に位置し、北は豊田市、東は新城市、南は豊川市に接している。総面積は約160.27km²で、本市の全体の約41.4%を占めている。

地形は、木曽山系の最南端、本宮山に連なる山脈が伸びた西部の標高100mから300m内外の丘陵地で、その間を流れる矢作川の支流は、中央の山岳に隔てられて、南部の男川、北部の乙川の２流域に分かれている。この流域に沿って集落が点在し、また、山間谷間の耕地が散在している。

（２）気候

本市は、夏に雨が多く冬は快晴で乾燥しやすい内陸的な性格の典型的な太平洋気候となっており、年間の平均気温は約16度、平均降水量は約1,300mmと温暖な地域となっている。また、丘陵から平野が広がる地域では、5.5m/秒以上の風力が、山間地域では7～8m/秒の風力があり、比較的強い風況を有しており、さらに通年で高い日射量を有し、秋季から春季にかけて日照時間が長くなっている。

気象状況

年別	気温()			総降水量(mm)	平均湿度(%)	天気日数(日) 14時現在				
	平均	最高	最低			快晴	晴	曇	雨	雪
H22	16.4	38.2	-2.8	1,514.5	68	5	216	105	39	-
H23	15.9	36.9	-3.1	1,621.0	68	10	217	105	32	1
H24	15.6	37.1	-5.7	1,158.5	71	18	202	106	40	-
H25	16.1	38.9	-4.2	1,239.0	67	19	211	104	31	-
H26	15.9	38.1	-3.2	1,086.5	63	4	204	119	37	1

出典：岡崎市統計書

２．社会的及び経済的条件

（１）人口の動向

本市の人口は、最近10年間で約7.6%増加し、平成22年には372,357人となっている。また、岡崎市将来推計人口によると平成42年まで増加傾向が続くが、同時に高齢化も加速し、平成32年度には平成22年度より5.9ポイント上昇し、約23.9%となる。

一方、本地域の人口は、年々減少しており、平成32年には、現在より約7.8%減の、7,991人となっている。高齢化率については、10年前と比較すると、3.9ポイント上昇し、27.0%となっており、平成32年には31.3%まで上昇するとされている。

年齢階層別人口の動向

（単位：人、％）

年別	振興山村					
	総数	0～14歳	15～29歳	30～44歳	45～64歳	65歳以上
H12	9,414 (100%)	1,344 (14.3%)	1,694 (18.0%)	1,469 (15.6%)	2,735 (29.1%)	2,172 (23.1%)
H17	9,103 (100%)	1,155 (12.7%)	1,514 (16.6%)	1,362 (15.0%)	2,800 (30.8%)	2,272 (25.0%)
H22	8,614 (100%)	1,036 (12.0%)	1,265 (14.7%)	1,379 (16.0%)	2,600 (30.2%)	2,328 (27.0%)
H27	8,328 (100%)	1,029 (12.4%)	4,696 (56.4%)			2,603 (31.3%)
H32	7,991 (100%)	1,050 (13.1%)	4,142 (51.8%)			2,799 (35.0%)

年別	市全体					
	総数	0～14歳	15～29歳	30～44歳	45～64歳	65歳以上
H12	345,997 (100%)	58,139 (16.8%)	74,964 (21.7%)	73,233 (21.2%)	92,606 (26.8%)	46,787 (13.5%)
H17	363,807 (100%)	57,307 (15.8%)	70,396 (19.4%)	83,295 (22.9%)	96,706 (26.6%)	55,830 (15.3%)
H22	372,357 (100%)	57,169 (15.4%)	63,631 (17.1%)	85,618 (23.0%)	97,560 (26.2%)	66,950 (18.0%)
H27	382,893 (100%)	56,583 (14.8%)	243,321 (63.5%)			82,989 (21.7%)
H32	389,715 (100%)	54,642 (14.0%)	242,072 (62.1%)			93,002 (23.9%)

出典：H12, H17, H22 国勢調査 H27, H32 岡崎人口推計

総数には年齢不詳を含むため内訳と一致しない

H12, H17 の市全体の数値は、旧岡崎市、旧額田町を合算

(2) 産業構造の動向

本地域の産業別就業人口は、平成22年度国勢調査によると、総数4,490人で、第一次産業の就業者数が385人（8.6％）、第二次産業の就業者数は1,692人（37.7％）、第三次産業の就業者数は2,229人（49.6％）となっており、特に第一次産業の就業割合は、市全体（1.6％）と比較して高くなっている。

平成22年世界農林業センサスによると、本地域における総農家数は800戸で、本地域の総世帯数の約27.5％を占め、市全体と比較して総世帯数に対する農家数の割合は高い。内訳をみると、自給農家は10年前と同じ396戸で、販売農家は15.5ポイント減少の404世帯となっている。

産業別就業者数

（単位：人、％）

年別	振興山村				市全体			
	全体	1次産業	2次産業	3次産業	全体	1次産業	2次産業	3次産業
H12	4,968 (100%)	467 (9.4%)	2,146 (43.2%)	2,352 (47.3%)	181,595 (100%)	3,797 (2.1%)	77,886 (42.9%)	99,603 (54.8%)
H17	4,915 (100%)	443 (9.0%)	2,030 (41.3%)	2,437 (49.6%)	190,571 (100%)	3,637 (1.9%)	77,322 (40.6%)	107,202 (56.3%)
H22	4,490 (100%)	385 (8.6%)	1,692 (37.7%)	2,229 (49.6%)	186,827 (100%)	2,972 (1.6%)	71,978 (38.5%)	104,696 (56.0%)

出典：国勢調査

総数には分類不詳を含むため内訳と一致しない

H12,H17の市全体の数値は、旧岡崎市、旧額田町を合算

専業兼業別農家数

（単位：戸、％）

年別	振興山村				市全体			
	総世帯数 (世帯)	総農家数	自給 農家数	販売 農家数	総世帯数	総農家数	自給 農家数	販売 農家数
H12	2,635 (100%)	946 (35.9%)	396 (15.0%)	550 (20.9%)	120,883 (100%)	4,956 (4.1%)	1,764 (1.5%)	3,192 (2.6%)
H17	2,761 (100%)	866 (31.4%)	388 (14.1%)	478 (17.3%)	135,351 (100%)	4,772 (3.9%)	2,194 (1.8%)	2,578 (2.1%)
H22	2,907 (100%)	800 (27.5%)	396 (13.6%)	404 (13.9%)	146,714 (100%)	4,252 (2.9%)	2,225 (1.5%)	2,027 (1.4%)

出典：農林業センサス

H12,H17の市全体の数値は、旧岡崎市、旧額田町を合算

総世帯数は住民基本台帳（各年2月1日現在）

(3) 土地利用の状況

本地域の総土地面積は、16,027haで本市全体の約41.4%を占めている。また、本地域の林野率は約85.8%で、市全体の約35.5%を占めている。

経営耕地面積は244haで本地域全体の1.5%程度となっており、田がその大部分（約82.8%）を占めている。経営耕地面積は年々減少しており、平成12年度と比較すると144ha減少している。

土地利用の状況

(単位 : ha、 %)

年度	振興山村							
	総土地 面積	経営耕地面積					林野面積	
			田	畑	樹園地	農家 1 戸当 り面積		現況森林
H12	16,027 (100%)	388 (2.4%)	315 (2.0%)	58 (0.4%)	15 (0.1%)	0.41	13,746 (85.8%)	13,746 (85.8%)
H17	16,027 (100%)	279 (1.7%)	233 (1.5%)	34 (0.2%)	12 (0.1%)	0.32	13,741 (85.7%)	13,741 (85.7%)
H22	16,027 (100%)	244 (1.5%)	202 (1.3%)	39 (0.2%)	6 (0.03%)	0.31	13,742 (85.7%)	-

(単位 : ha)

年度	市全体							
	総土地 面積	経営耕地面積					林野面積	
			田	畑	樹園地	農家 1 戸当 り面積		現況森林
H12	22,697 (100%)	2,580 (11.4%)	2,063 (9.1%)	430 (1.9%)	87 (0.4%)	0.64	9,700 (42.7%)	9,700 (42.7%)
H17	22,697 (100%)	2,125 (9.4%)	1,736 (7.6%)	321 (1.4%)	68 (0.3%)	0.54	9,591 (42.3%)	9,591 (42.3%)
H22	38,724 (100%)	2,345 (6.1%)	1,976 (5.1%)	297 (1.0%)	73 (0.2%)	0.55	23,277 (60.1%)	23,268 (60.1%)

出典：H12 年度、平成 22 年度：世界農林業センサス H17 年度：農林業センサス

小数点以下を四捨五入しているため、合計と内訳数字が一致しないことがある。

(4) 財政の状況

本市における財政状況は、平成18年度の合併初年度と比較すると、歳入総額については、人口増加の影響もあり増加している一方で、高齢化の進展の影響もあり、社会保障関連経費に係る支出は増加傾向にある。また、今後は公共施設などの長寿命化のための保全整備に係る費用の増加にも留意する必要がある。

財政の状況（市全体）

（単位：千円、％）

区 分	平成 18 年度	平成 26 年度
歳 入 総 額 A	1 0 9 , 5 9 2 , 1 8 7	1 1 6 , 4 7 7 , 5 5 3
一 般 財 源	8 4 , 7 5 8 , 5 5 8	8 3 , 9 4 7 , 8 1 2
国 庫 支 出 金	7 , 2 6 7 , 7 0 7	1 4 , 4 9 7 , 3 3 1
都道府県支出金	3 , 8 4 5 , 4 5 5	6 , 8 3 7 , 3 3 9
地 方 債	5 , 7 4 2 , 5 0 0	3 , 5 4 8 , 0 0 0
そ の 他	7 , 9 7 7 , 9 6 7	7 , 6 4 7 , 0 7 1
歳 出 総 額 B	1 0 5 , 7 0 0 , 4 2 9	1 1 1 , 5 3 9 , 8 7 2
義 務 的 経 費	4 0 , 5 1 8 , 6 3 3	5 2 , 7 0 6 , 6 2 2
投 資 的 経 費	2 5 , 0 7 4 , 2 0 4	1 3 , 5 4 7 , 9 9 4
うち普通建設事業	2 5 , 0 7 4 , 2 0 4	1 3 , 5 0 6 , 8 9 1
そ の 他	4 0 , 1 0 7 , 5 9 2	4 5 , 2 8 5 , 2 1 3
歳入歳出差引額 C (A - B)	3 , 8 9 1 , 7 5 8	4 , 9 3 7 , 6 8 1
翌年度へ繰越すべき財源 D	8 6 4 , 9 9 6	5 7 0 , 5 5 5
実質収支 C - D	3 , 0 2 6 , 7 6 2	4 , 3 6 7 , 1 2 6
財 政 力 指 数	1 . 1 3	0 . 9 9
公 債 費 負 担 比 率	7 . 7	7 . 3
経 常 収 支 比 率	7 7 . 9	8 6 . 6
地 方 債 現 在 高	6 0 , 9 2 1 , 6 1 9	6 3 , 8 0 1 , 2 4 7

出典：18 年度及び 26 年度の岡崎市の決算カード及び決算統計調査検収調書

．現状と課題

１．これまでの山村振興対策の評価と問題点

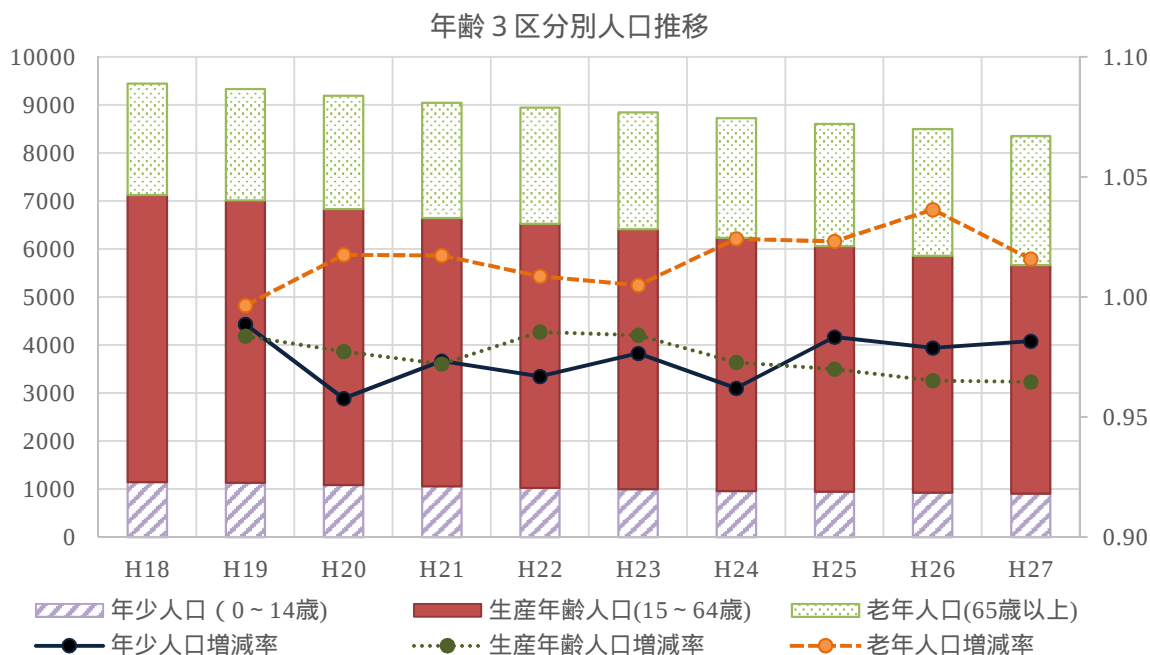
本地域は、昭和 44 年 12 月 27 日に山村振興法に基づく振興山村に指定され、昭和 44 年度に第一期対策、昭和 50 年度に第二期対策、昭和 55 年度に第三期対策、平成 9 年度に第四期対策、平成 17 年度に第六期対策と、計 5 期に係る山村振興計画を策定し、交通網の整備、農林水産業の生産基盤及び経営近代化施設の整備、文教施設及び社会生活環境等の整備等を中心に各種施策を興じてきた。これらの対策により交通、産業基盤、生活環境基盤の整備が進み、住民の利便性の向上が図られるとともに、市中心部との生活基盤水準の格差の是正に大きく貢献したところである。しかし一方で、本地域における人口減少には歯止めがかからず、若年層の流出、高齢化の進行、少子化の拡大、集落の縮小などが深刻なものとなっている。

２．山村における最近の社会、経済情勢の変化

都市化の進行や拡大化に加えて、本地域の基幹産業でもある農林業の長引く不振、製造業等の産業の低迷による雇用機会の低下などにより、若年層を中心に人口や世帯の流出が続いている。

他方、新東名高速道路岡崎東インターチェンジの供用が開始されることで、本地域へのアクセス性は向上し、新たな産業の創出、それに伴う雇用機会の増加や、都市部住民との交流の機会の増加などが期待されている。

また、近年、首都圏を中心とした「田園回帰」志向が拡大する中で、国・県・市を挙げた地方創生の取組がスタートし、地方への人の流れ、地方移住の機運は高まりつつある。



出典：住民基本台帳、外国人登録(各年10月1日現在)

３．山村における森林、農用地等の保全上の問題点

本地域の林業は、戦後活発な造林が行われ、森林資源の成熟度の高い人工林を形成している。しかし、林業労働力の減少と高齢化、国産材低迷による産業としての意欲減退、産地間競争の激化など、林業を取り巻く環境は厳しさを増しているほか、水産業についても、組合員数の減少や高齢化により内水面漁場環境の保全も厳しい状況となっている。

また、農業は、担い手の高齢化や後継者不足などにより農家戸数が減少しており、経営耕地面積も年々減少傾向にあり、基盤整備が進められているものの零細で規模が小さく、耕作放棄地が増えている状況にある。

このように森林・農用地・内水面漁場環境の管理水準が低下すれば、農林水産業の振興のみならず、国土の保全、水源のかん養等の機能の低下を招き、山村の重要な役割が失われることとなる。このため、国土保全機能の十分な発揮に向け、農林地及び内水面漁場環境の効果的な保全や、農林水産物などの利活用と併せた保全活動の推進など、持続的な活動や運営が可能となる仕組みづくりが急務となっている。

また、野生鳥獣の個体数の増加に伴い、植林した林木の食害や農林水産物の被害も増大しており、経営耕地面積の減少の要因にもなっているため、野生鳥獣の適正な保護管理と被害軽減を図る必要もある。

４．山村における新たな課題

本地域では、若年層を中心とした人口流出増加傾向にあり、高齢化が進行している。こうした問題は、集落規模を縮小させ、その機能を弱体化させていくほか、住民活動意欲の減退、空き家などの発生による災害、犯罪発生に対する懸念や、景観の悪化を招くなど、多くの課題を生み出している。

このようなことから、集落機能を継続して維持するための取組や、空き家などの遊休不動産の活用策の検討、交流・移住・定住施策の促進を図るほか、行政サービス水準を維持できるよう、公共施設の統廃合や、必要性を踏まえた計画的な社会資本の維持・更新が必要となる。

また、新東名高速道路岡崎東インターチェンジの開通により、都市との交流機会の増加が期待されるものの、本地域内での対応は困難で、他の地域と連携した広域的な観光施策の推進を図るほか、地域資源を活用した新たな商品や魅力の作り上げを行い、新たな産業及び雇用の創出や、消費活動の活性化を促進する必要がある。

．振興の基本方針

１．本地域の自然的、社会的及び経済的条件の特徴と抱える問題点等

本地域は、本市の東部に位置し、集落は山間の水系によって分断されており、市街地までの距離も 20 kmを超える地域もあるなど、地理的条件に恵まれていない。

そのため、人口は若年層を中心とした転出超過傾向にあり、人口減少や高齢化といった問題は年々深刻なものとなっており、今後、地域社会の維持が困難となる集落も予想されている。

また、農家数の割合が高いにも関わらず、主要産業である農林業が低迷しており、農林水産業の生産活動を通じて発揮される国土や自然環境の保全や、良好な景観の保全といった山村の有する多面にわたる機能の十分な発揮が危惧される状況にある。

また、本地域に存在する空き家、老朽化した公共施設、遊休不動産などについて、利用形態を踏まえた活用策や合理化、又は、複合化などの検討が必要となっている。

２．本地域の特性を生かした地域活性化の方針及び森林、農用地等の保全の方針

本地域の豊かな自然環境は、水源のかん養機能、地球環境保全機能、防災機能、レクリエーション機能、農林業の産業資源など、多様な役割を担っている。この恩恵を、都市と山村が一体となって保全育成し、将来にわたって継承する必要がある。

このため、本地域は特色ある農林水産物等の地域資源を活用した産業振興、豊かな自然環境や景観を活かした交流施策の促進、適正な国土の保全、水源のかん養、自然環境・生物多様性の保全などを図ることを推進するものとする。

また、地域が自立して、いきいき暮らすことのできる生活環境づくりを推進し、山村における定住の促進と、健全な農林水産業の維持・発展を通じた農林地及び内水面漁場環境の保全を図るものとする。

３．山村振興の目標を達成するための主な方法

本地域の振興の方針を踏まえ、農林水産業の付加価値の向上や、生産性を向上するための、道路交通網や生産基盤の整備、地域特性を活かした高収益作物の導入や、高付加価値化、6次産業化による農林水産業の振興、都市部住民との交流施策の推進や、移住・定住促進を図るための基盤整備、将来の人口情勢を見据えた公共施設配置の適正化、地域住民が主体となって実施する活性化活動に対する支援を図るものとする。

- ・ 道路交通網と産業基盤の整備
- ・ 地域の特性を活かした産業振興と交流促進
- ・ 移住、定住希望者を受け入れるための基盤整備
- ・ 老朽化した公共施設の適正配置の検討
- ・ 愛知県及び愛知県交流居住センターとの連携による交流、移住・定住施策の推進

．振興施策

１．振興施策

（１）交通施策

- ・ 人口減少・高齢化の進行に対応し、コミュニティバスや公共交通機関の維持に努め、日常生活交通の確保を図る。

（３）産業基盤施策

- ・ 林業従事者の減少と高齢化を踏まえ林業施業の効率化を図るため、基幹的な林道の整備（山村代行制度）を含む路網の整備を行う。
- ・ 農道を整備して、移動の円滑化及び農業生産活動の向上を図る。

（５）地域資源の活用に係る施策

- ・ 地域資源を活用した新たな商品開発や魅力づくりを推進するための取組を支援し、本地域の地域内経済の活性化と雇用の増大を図る。

（７）社会、生活環境施策

- ・ 火災を始めとする各種災害による被害を最小限に防ぐため、地域の消防力の強化を図る。
- ・ 合併処理浄化槽の設置及び下水道の整備を行い生活環境の改善を図る。
- ・ 老朽化した公共施設の利活用策の検討を進めるとともに、機能集約及び統廃合を進めるなど、必要性を踏まえた計画的な社会資本の維持・更新に努める。

（９）集落整備施策

- ・ 定住促進対策として、本地域の都市計画区域外を対象に、空き家改修費補助制度を実施する。

（１０）国土保全施策

- ・ 農林水産業の振興を図ると同時に農地の保全と森林を整備することにより、自然環境の保全や、洪水防止などの機能を確保する。

（１１）交流施策

- ・ 豊かな自然環境を活かし岡崎東ＩＣを拠点とした観光地化を進めると共に、観光関連団体と連携し、観光スポットの整備及び利活用を図る。
- ・ 森林保全推進のため「水とみどりの森の駅」の一つである「おおだの森」で下流域住民を含めた里山づくりを行う。
- ・ 愛知県及び愛知県交流居住センターと連携して広域的な交流施策を進めるほか、ＵＩＪターンの促進を図る。

（１４）鳥獣被害防止施策

- ・ イノシシ、シカ、サル、ハクビシン、などによる農産物への被害を防止するため、農用地への電気柵設置に係る費用について補助を行う。

2. 産業振興施策促進事項の有無

産業振興施策促進事項の記載	記入欄 (該当する欄に○を記入)
記載あり(別紙参照)	○
記載なし	

・他の地域振興等に関する計画、施策等との関連

本市では、平成 26 年に第 6 次岡崎市総合計画後期基本計画(計画期間：平成 27 年度～平成 32 年度)を作成し、今後の地域づくりの指針を明らかにしていることから、当該指針を踏まえ、各種施策を展開することとする。

参 考 資 料

都道府県	市町村名	作成年度
愛知県	岡崎市	平成27年度
振興山村名	旧額田町：豊富村・宮崎村・形埜村・下山村	
指定番号	旧額田町：第586号	

振興事業の概算事業量及び概算事業費

施策区分		事業名 (施設名)	事業 主体名	概算事業量	概算事業費 (千円)	備 考
交通施策		コミュニティバス等運行				
	1	下山地区線	岡崎市		150,000	
	2	形埜地区線	〃		76,000	
	3	宮崎地区線	〃		62,200	
	4	豊富夏山地区線	〃		38,800	
小 計					327,000	
産業基盤施策		林道開設				
	5	基幹的な林道 大代滝尻線	愛知県	L=9400m W=4m	1,000,000	山村代行
	6	仏松線	岡崎市	L=2400m W=4m	111,000	
		林道改築				
	7	中部線	岡崎市	L=500m W=4m	15,000	
	8	戸沢線	〃	L=300m W=4m	1,000	
		林道舗装				
	9	大野線	岡崎市	L=1640m W=4m	29,500	
	10	長坂上田原坂線	〃	L=1280m W=4m	23,000	
	11	麦ノ沢線	〃	L=145m W=4m	2,600	
	12	毛呂小銭ヶ入支線	〃	L=770m W=4m	13,900	
	13	中部線	〃	L=2585m W=4m	46,500	
	14	鹿伏線	〃	L=1237m W=4m	22,300	
	15	井戸入初石線	〃	L=1056m W=3m	15,000	
		林道危険地対策				
	16	鍛埜桜形線	岡崎市	L=280m W=4m	36,000	
	17	石原河原線	〃	L=280m W=4m	36,000	
	18	桜形木下線	〃	L=100m W=4m	18,000	
	19	長坂上田原坂線	〃	L=100m W=4m	18,000	
		水源林対策事業				
	20	作業路新設 ヒッコシ線	岡崎市	L=450m W=3m	3,000	
	21	作業路新設 トドロキ 5 号線	〃	L=700m W=3m	5,000	
	22	作業路新設 巴山線	〃	L=1000m W=3m	7,000	
	23	間伐、下刈り等	〃	3,183 h a	511,840	
	24	山村振興営農整備 農道整備	〃	L=3,000m W=3.0m	60,000	
小 計					1,974,640	
社会、生活環境施策	25	消防団車両(小型動力ポンプ積載車)	岡崎市	9台	48,600	
	26	消防団車両(小型動力ポンプ付積載車)	〃	4台	36,720	
	27	消防団ポンプ(小型動力ポンプ)	〃	B 3級 22台	42,768	
	28	高規格救急車	〃	2台	65,880	
	29	消防広報車	〃	1台	3,780	
	30	合併浄化槽設置補助	〃	300基	179,180	
	31	特定環境保全公共下水道(榎山地区)	〃	67.13ha	1,723,841	
	32	額田支所周辺施設整備事業	〃	(仮)額田センター及び周辺整備	1,253,463	
	33	豊富児童育成センター建替事業	〃		121,230	
	34	豊富保育園園舎建替事業	〃		850,200	
小 計					4,325,662	
集落整備施策	35	空き家改修費補助事業	岡崎市	20件	10,000	
小 計					10,000	
国土保全施策	36	中山間地域等直接支払事業	岡崎市	461,314㎡	8,159	
	37	多面的機能支払事業	〃	22ha	9,830	
小 計					17,989	
交流施策	38	くらがり深谷施設整備事業	岡崎市		7,734	
	39	観光地化事業	〃		8,235	
	40	里山づくり(おおだの森)	〃	森林整備51.7h a、L=1530m	36,000	
	41	牧平公園 便所水洗化	〃	1ヶ所	10,000	
	42	愛知県交流居住センター負担金	〃		5,000	
小 計					66,969	
鳥獣被害防止施策	43	電気柵設置事業	岡崎市		21,000	
小 計					21,000	
合 計					6,743,260	